

【徳島市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末等のICTの利活用を通して実現する学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会答申（令和3年1月）等の内容並びに第4期教育振興基本計画において、今後の教育課程の在り方として、学習指導要領に示された資質・能力の育成を着実に進めるとともに、学校における基盤的なツールであるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「ICTの利活用」はベストミックスであり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる上で、1人1台端末の利活用は必要不可欠な要素として、重要な役割を担っている。

本市では、これらのことを踏まえ、GIGA第2期に向け、ICTの利活用を通して以下のような児童生徒の学びの姿を目指す。

まず、「個別最適な学び」の実現に向けて、1人1台端末を活用し、個々の理解度や学習進度に合わせ、児童生徒一人一人の実態に応じた学習計画に基づき学びを進める。児童生徒が個々の学習履歴、生活や健康面の記録等、様々なデータを管理活用することで、自分に合った学習の進め方を考えることができるようにする。また、興味関心や、キャリア形成の方向性に応じて、児童生徒が自ら課題を設定し、学習活動や学習課題に取り組む機会を積極的に提供していく。加えて情報の探索、データの処理や視覚化、レポート作成等にICTを効果的に活用し、学びの質を高めていく。これら「指導の個別化」と「学びの個性化」という二つの側面において、ICTの利活用を通して、主体的に学習に取り組み、学びを調整することができる児童生徒の育成を目指す。

次に、「協働的な学び」の実現に向けて、児童生徒一人一人が自らのペースを大切にしながら共同で作成・編集等を行う活動や他者の意見を参考にしながら学びを深める活動の機会を十分に保障していく。また、ICTを利活用し、空間的・時間的制約を緩和することにより、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域との交流などの学習にも積極的に取り組んでいく。こうした、多様な他者との協働的な学びを通して、児童生徒一人一人が、多くの他者の考えに触れ、自己の考えを広げ深められるようにする。そして、学びを通じて、自分や他者のよさや可能性を認識し、自分の学びが何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることを実感できる経験を積み重ねることで、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本市では、令和2年度にGIGAスクール構想に基づき、校内通信ネットワーク、無線LANアクセスポイント（普通教室）、児童生徒用1人1台端末及び、貸し出し用モバイルルータの整備を完了している。その後、特別教室のアクセスポイントを最新規格のものに更新するとともに、無線LANアクセスポイントやフィルタリングソフト等の設定の見直しを随時実施してきた。また、学校間による端末1台あたりの通信帯域の平準化と増強を図った。さらに、タブレットのWindowsアップデートの実施方法の見直しと効率化を図り、小中学校における1人1台端末のネットワーク接続の安定化に努めてきた。これらのICT環境整備に加えて、ICT活用を促進するため9名のICT支援員を学校に配置し、授業支援や児童生徒の操作支援、環境支援を実施してきた。併せて、徳島県立総合教育センターにおけるICT活用に関する研修や本市教育研究所における授業支援ソフトウェア等の活用研修により、教員のICT活用指導力の向上に努めてきた。これらの取組を通して、本市における教員のICT活用指導力は高い水準を維持しているが、学校間や教員間の活用状況には差があり、全教員がICTを日常的に利活用するためには、今後も研修の充実を図る必要がある。

一方、導入当初と比べ、学習者用デジタル教科書（英語、算数・数学）の活用や、児童生徒が使用する教科書へのQRコードの記載の増加により、デジタル教材の活用が激増している。また、学力調査等におけるCBTシステムの利用が開始され、全国学力テストにおいては、令和7年度に中学校理科、令和8年度には中学校英語、令和9年度には小中学校での全面実施の方針が示されている。

こうした状況とともに、使用開始から5年目を迎える1人1台端末は、故障の増加やバッテリーの消耗が見られる。また、活用場面において性能的に十分でない状況も見られ、学校現場からも端末更新の強い要望があり、早急な対応が必要となっている。加えて、通信環境においても、児童生徒が1人1台端末をストレスなく活用できるようネットワークアセスメントを実施した。今後は、情報通信機器の改善及び、通信帯域増強のための回線契約の見直しを行う予定である。

3. 1人1台端末の利活用

GIGA第1期においては、1人1台端末の日常的な活用が進んできているが、学校間や教員間における利活用に差が生じている現状も見られる。そこで、活用状況調査を実施し、これらの結果を踏まえ課題を精査し、改善に向けて計画を立案・実行していく。また、児童生徒の学びを止めないためにも、計画的に1人1台端末の更新を実施する。GIGA第2期においては、次のとおり、1人1台端末の利活用を促進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

(1) 学校教育・家庭学習の充実

全ての教員のICT活用指導力の向上に向けて、ICT活用研修の充実を図り、1人1台端末の日常的な活用を促進する。また、活用状況調査の結果を踏まえ、ICT支援員の配置を見直し、戦略的・継続的に派遣することで、新たな取組や好事例を横展開し、児童生徒の情報活用能力の育成及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。また、1人1台端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書やAI型ドリル、授業支援ソフト等の活用により、家庭学習の充実を図る。さらに、利活用推進にあたっては、児童生徒一人一人が情報を扱う意味を正しく理解し、適切に判断・行動できる力を育成するため、情報モラル・セキュリティ教育の推進を図る。

(2) 教師主導から児童生徒主導の学びへ

児童生徒が自己調整しながら学びを主導する力を育成するために、ICTの積極的な利活用と、授業観における「教員の指示による学びから児童生徒の主体的な学びへの転換」が求められている。そこで、授業改善に向けて徳島県教育委員会が示した「徳島ICT活用モデル」を活用し、令和6年度は県の掲げる推進目標「Augmentation（増強）以上の実施率100%」の実現に取り組んできた。今後は、日々の学習の中で、児童生徒が1人1台端末を「学びの道具」として、自ら調べたり、自分の考えをまとめ、発表・表現したり、相互にやりとりしたりする授業デザインの構築・実践を通して、さらなる個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るとともに、児童生徒の主体的な学びを育んでいく。併せて、児童生徒一人一人の特性にあった学習を進めるため、自由進度学習の取組や、学習履歴をはじめとするデータの収集・分析・活用方法についても研究を深めていく。

(3) 全ての児童生徒の学びの保障

文部科学省の「COCOLOプラン」において、不登校支援やいじめ対策として示された1人1台端末を活用した「心の健康観察」を実施し、児童生徒の心や体調の変化を早期に発見し、早期支援につなげる。また、不登校や病弱等の児童生徒に対し、本人の状況や思いを尊重しながら、オンライン学習等を実施する。日本語指導が必要な児童生徒や様々な困難を抱える児童生徒への多様な場面におけるICTの利活用を通して、全ての児童生徒の学びを保障し、一人一人の可能性を引き出す教育を実践する。